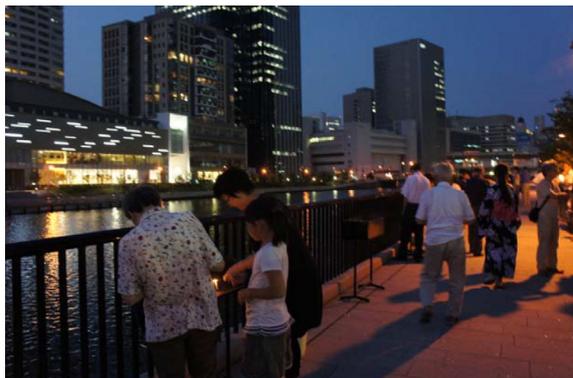


# 中之島の精霊流しへのご案内

中之島精霊流し実行委員会

昔は、大阪の各地で見られたお盆の風物詩「精霊流し」。

ここ中之島でも昔から精霊流しが行われており、もともとは大阪市が開催していたのですが、20～30年前から中之島連合振興町会及び有志のボランティアなどによって開催しています。



「中之島の精霊流し」

会場：玉江橋南詰西側

(中之島バンクス遊歩道/

大阪市北区中之島5丁目3番56号)

「精霊流し」とは、故人の霊をお供え物と一緒に精霊船へ乗せて、お見送りするお盆の伝統行事ですが、そもそも、いつ頃から何のために始まったのでしょうか。

ここでは、大阪民俗学研究会代表・田野登博士に教えていただいた、精霊流しのルーツに関するお話をご紹介します。

---

## お盆とは・・・

いったいお盆に来られるのはどなたなのでしょう。わかっているようでわからないのです。

経木に戒名を書いて仏壇にお祭りする先祖さまたちとは別に餓鬼棚を設けている家庭もあります。私の家では、日に三度のお膳と一緒にあげたお茶湯をお下げする際、貯めておいたお茶湯を夜に四つ辻に撒きに行きます。その時には「餓鬼に施す。餓鬼に施す……」と唱えます。亡き母からは、このお盆の時期には、家に祭られぬ喉を渴かした餓鬼さんが道端にいるので、お茶湯を撒いてやると聞かされております。8月15日、昼下がりとまなれば、お祭りする先祖さまに持って帰ってもらうための白蒸（しらむし）や、白玉の送り団子も用意します。お供え物は足が早いからとか言って、母はなぜか早く帰ってもらいたがりました。

夕方ともなれば、お勤めの後、仏壇の鈴（りん）を鳴らし、門口で苧麻（おがら）を焚いて送ります。はたして、送られるのは、先祖さんだけなのでしょうが？

## 精霊流しとは・・・

精霊流しということばがあります。盂蘭盆会（うらぼんえ）に家庭でお祭りしたホトケさんやお供え物を川に流すといった民俗行事です。

宗旨により、精霊流しをなさらない家庭もありますが、特定の仏教の宗派だけで行う行事というものではありません。私は、毎年、8月13日夕方、ホトケさんをお迎えし、お祭りし、15日夕方、お送りしています。今、子どもころの玉江橋での精霊流しのことを思い出しています。その場所は、今の朝日放送の前、昔は阪大病院前の浜でした。

「・・・阪大病院前の玉江橋は八月十五日の宵には精霊を送る橋となる。餓鬼さんにもヒモジイ（空腹な）思いをさせないようにと、盆棚の果物などの、お供え物を船に仕立てた紙箱に載せて流した。紙箱の船にロウソクを立て、橋を降り、闇の中、そーろっと川に浮かべた。いつも「船」が見えなくなるまでに蠟燭の火は消えていた。・・・」

これは私が子供の頃の昭和三十年代の記憶の世界であります。福島区の家庭では、堂島川、安治川、淀川の水辺で精霊流しをしていました。現在、玉江橋の精霊流し（中之島の精霊流し）は、八月一五日の宵、北区中之島町会が世話方となって行われ、供え物を携えた近在の老若男女が詰めかけます。

## 精霊流しとよく似た伝統行事・・・

送り火を観光にする都市もありますが、北摂池田のガンガラ火祭りなども早くから行われております。盛大に精霊船を仕立てたり、燈籠流しをする地方もあります。東北地方のネブタのような睡魔を祓う行事も同系列の民俗行事です。

大阪の夏の風物詩となれば、天満天神の盛大な船渡御が挙げられます。この行事の原形は鉾流し神事に認められます。その神事は、夏を無事に過ごそうとする夏越の祓であり、さかのぼれば疫病神送りにまで行き着きます。どこか、餓鬼さんを送る精霊流しも似てきます。

## 大阪人にとって川や海の意味・・・

大阪は市中に堀川が掘削され、古来より「水」を利することによって開かれた都市です。そのいっぽう、「水」によって災厄を被った都市でもあります。それだけにこの地には、「水」にまつわる伝説が近世においても多く語られているのです。大阪人にとって川や海といった空間は、何を意味するのでしょうか。大阪人の河・海の世界観の一端を示すものに厄払いの口上があります。厄払いを仕事とする人たちは、明治の初めまで、節分の時、大阪の街を流して歩いていました。

「ヤアツク払ひましよ……ヤアヤア目出度いナア目出度いナア。鶴は千年、亀は万年。東方朔は九千歳、浦島太郎は八千歳。三浦大助百六ツ。彼程目出度折柄にいかなる悪魔が来るとも此厄払がひとつらへ、ちくらが沖(筑羅)と思へども西の海へ真逆さまにサラリ　サラリ……」

(注) 浅井泰山、一九三四年二月「大阪に於ける節分の想ひ出」『上方』三八、上方郷土研究会

大阪人の災厄は、河海にサラリサラリと流してお仕舞いというのでしょうか。「西の海」とは  
いったい何なのでしょう。古来、大阪の街は「水の都」「八百八橋」と称されていました。  
難波の浦は大阪人にとって異界との縁ではないのでしょうか。

## 水都大阪の水辺の妖怪や異類のものたち・・・

### ～鶴～

その昔、夜な夜な帝を悩まし続けた鶴（ぬえ）という妖怪は京の都で射落とされ退治されま  
したが、それが淀川下流に流れ着きました。その場所（都島区都島本通3）に鶴塚が建てられ  
たとされています。

都の不吉なモノが漂着したのが淀川河畔でありました。

### ～風の神～

大阪ではケガレを水辺に流す習俗があります。風邪の流行った時、風の神を送るのは市中の川  
々でありました。

市中風流行之事では、享和二(1802)年「三月上旬より、大阪市中風邪大いに流行して、是にな  
やまざるもの稀也。是によつて町々より風の神といへるものをこしらへ、夜毎々々に送りて川  
々に捨る。皆おのがさまざまにて、鬼形の姿、あるひは狐、和藤内、鬼の念仏、法界坊、鐘や  
太鼓どら螺貝を吹囃し、夜毎の賑ひ、誠に一つの珍事とも云つべし。」

(注) 暁鐘成『嘶の苗』刊行年不明（『日本随筆大成三一六』吉川弘文館）

風の神送りは、都市生活者のパフォーマンス・演劇的表現であります。風の神を「鬼形の姿、  
あるひは狐、和藤内、鬼の念仏、法界坊」といった可視的な「異類」に見立てて、「送る」の  
であります。その舞台は、都心周縁の堀川なのです。

### ～餓鬼～

餓鬼島の「餓鬼」は、異類のモノであります。天満・渡辺・大江・福島界限の川筋には、ひも  
じがる「鬼」の登場する伝承があります。

#### ① 『摂津名所図会』福島天神社

この地の勧請のはじめは、菅公つくしへさすらへたまふ御時、この島に船かかりましまし、  
里人に所の名を尋ねたまへば、餓鬼島なりと申し上ぐる。これ不祥の名なり。改めて福島と名  
乗らば後世繁昌すべしとの仰せによりて福島といふ。異名を葭原島ともいふ・・・

#### ② 「わが天神祭り」『日本随筆紀行一七』藤本義一、一九八七年作品社

それは、「『大昔はな、天神祭りの晩には、大江山あたりから鬼が仰山大阪へやって来まして  
な、あの橋の下あたりで、舌舐めずりしていたもんやそうでっせ』と、（天神祭りの船渡御見  
物の船に）同席していた九〇歳の芸人さんが教えてくれた。橋の下の鬼たちは、  
橋から滾れ落ちてくる人間を待ち受けていたのだという」という伝承がある。

## 最後に・・・

流されるのは、どなたなのでしょう？

厄災はサラサラと水に流されました。

水辺には都で射落とされた鶴が漂着しました。

水辺からは風の神が送られました。

天神祭の橋の下には大江山からのひもじがる鬼が出張してました。

中之島の精霊流しのルーツをたどるうちに水辺に「異界」を覗き見しました。

(おしまい)

民俗学研究者 博士（文学） 田野登 記

～おまけのお話、、、祭りと祀り～

本文では、「まつり」に「祭」の字で統一しました。

「まつり」の用字ですが、普段の「おまつり」は「祀り」ではとボクは考えました。

「ハレ「晴れ」」と「ケ「褻」」で云えば「ケ」です。

また、柳田民俗学では、「まつり」を「神事」と「祭礼」に区別しました。

見物人が繰り出す「おまつり＝祭礼」は間違いなく「お祭り」です。

賑やかしは、「祭礼」の「祭」。

年に一度、ご先祖さんが帰って来られる盂蘭盆会は、

三度三度のお供えをし、御経を挙げる、おめでたい「ハレ」の時です。

慎ましくも、お盆の「先祖祭り」と称する時なのです。